

七月の第三月曜日は海の日です。「国民の祝日に関する法律」によれば、「海の恩恵に感謝するとともに、海洋国日本の繁栄を願う」日であると定められています。夏休みだから海に遊びに行きましょう、という日では無いようです。

海は水産資源の恵みの源として、海の無い県に住む方にとっては行ってみたい憧れの場所として、更には信仰の地としても崇められて来ました。

かつて、道元禅師が上陸された中国の寧波^{にんぽー}の沖に、普陀山^{ふださん}という観音霊場があります。日本に向けて運ばれた観音様を載せた船が、海が荒れて動けなくなり、島に祀^{まつ}ったといわれています。文殊菩薩^{ごだいさん}の五台山、普賢菩薩^{がびさん}の峨眉山と共に中国では仏教聖地とされているところです。

水辺に流れ着いた観音様の伝説が多くあることからか、観音像はその多くが海の方角を向いて建立されています。海は全ての水を受け入れることから慈しみと優しさ、包容力の象徴でもあり、同時に厳しさももたらす畏敬の対象でもあります。海が安らかであることを観音様に託し、祈る心には切実なものがあるでしょう。

かつて、海の向こうは杳^{よう}として伺い知ることが出来ないところでした。水平線の彼方から何がやって来るのか、飛んでくるツバメやカッコウ等、夏の渡り鳥に訊ねても分かりません。

先の大戦の時代には、南へ飛んで行った飛行機の行く末を海辺で祈りました。そうした場所が、今は慰霊の場となり、海に向かって立つ観音様は静かに目を伏せて心声を大海原に伝えておられます。そして碎ける波の音は観音経に出てくるように仏様や菩薩様の声にも喩^{たと}えられ、私たちの心の奥底まで響いて迷いから呼び覚ましてくれそうです。

お盆も過ぎ、秋のお彼岸までもう少し、夏休み中賑やかだった海岸に降り立ち、心静かに波音に耳を傾けてみましょう。

『 禅のこころ -曹洞宗- 』

そして海の向こうとこちらとの境に立っているあなたの足元を見つめ直してみても如何でしょうか。

— 終 —